

No.⑦	分類	3-(2)-ア	資料名	何であかんのやろ	学年	2年	関連領域例	特別活動(学級活動)	
								道徳科	A-(I) 善悪の判断

1 ねらい

- インターネット端末を介して習得する情報の特徴を理解し、差別を助長するような不適切な言葉があることに気付くことができる。
- 何気なく言った言葉が人を傷つけしまうことを知り、安易な言葉で誰かを傷つけないよう、人の気持ちを考えて行動する態度を身に付けさせる。

2 趣旨

- 低学年の児童にとっても、インターネット端末で様々な情報を得ることは生活する上で欠かせない。しかし、低学年という発達段階を考慮すると、インターネットからいつの間にか得た情報を、善悪の判断がつかないまま使ってしまい、他者を傷つけてしまうことが危惧される。そこで、実際に起こり得るような場面を資料とした。実生活と結び付けながら考えさせることで、インターネットによる人権侵害の未然防止や、インターネットの内容を鵜呑みにしないよう指導につなげる。

3 配慮事項

- 「うざい」や「きしよい」という言葉遣いの問題も挙げられるが、本資料はインターネットによる人権侵害がテーマであるので、「タブレットを使うときの言葉に気を付けること」や「インターネットで知った言葉は気を付けて使おう」という反応に焦点を当てる。
- 児童から、「掃除中にしゃべっていることがいけない」という意見が出れば、場面の様子を確認し、「いけないことはそれだけかな」と返し、言葉遣いに気付かせたい。
- すっきりしない気分で帰宅した主人公が家庭の会話の中で、一定の解決方法を見出すことも考えられるが、様々な家庭環境があることを考慮し、友だちとの会話から自分の誤りに気が付く資料構成にしている。しかし、家庭で考えるという児童の意見も十分に尊重したい。

4 展開例

学習内容	指導上の留意点
1 資料を読み、話の流れを把握する。 2 場面に沿いながら、はるかさんの気持ちの変化を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> どうして先生は、はるかさんの言葉を強く注意したのでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使ってはいけない言葉だから。 ・ 人を傷つける言葉だから。 ・ 動画でも、ふだんの生活でも言ってはいけないから。 ・ みんなが言っていると言っても言ってはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が理解しやすいよう、挿絵を手がかりにしながら、じっくりと範読する。 ・ はるかの様子から、児童の日常に近付けるよう助言する。 ・ 「うざい」や「きしよい」という言葉に着目させ、どのような意味があるか尋ねる。 ・ 誰に対しても、絶対に言ってはいけない言葉だということをおさえる。 ・ けんちゃんの様子から、普段使っている言葉が相手を傷つける場合があることをおさえる。
(どきどきしながら)心の中で先生に言い返すはるかさんはどのような気持ちでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 何がだめだったのかわからない。 ・ たったそれだけのことで怒らないでほしい。 ・ 何で私だけ怒られるの。 ・ ふだんみんなも言っている。 ・ 動画で大人たちも言っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 注意をされているのに、素直になれないはるかの気持ちを考える。 ・ 自分が間違えているのにも関わらず、反抗的なはるかの様子に気付かせる。 ・ インターネット上では、ひどい言い方が使われていることを知らせる。
(さっちゃんの話聞いた)はるかさんの気持ちはどうして晴れていくような気がしたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人を傷つける言葉だとわかった。 ・ 言っているいいことと悪いことを判断しないといけないことに気が付いた。 ・ 何にも考えないで使った言葉を反省した。 ・ これからは言葉遣いに気を付けないといけないなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切に判断をしないとインターネット(ゲームや動画など)から、知らず知らずに相手の気持ちを考えない言葉を身につけていることを知らせる。 ・ 詳しい意味も分からず、雰囲気だけでひどい言い方になってしまうときがあることをおさえる。